

## 大阪府立 信太 高等学校 令和2年度学校教育自己診断報告

学校教育自己診断委員会

### ＜ 目 的 ＞

- ① 信太高校の教育活動全般についての充実発展を図るため、教育の送り手と受け手の双方からの評価を点検・分析し、教育上の課題を明らかにすることで、今後の生徒への指導に役立つ資料とする。
- ② 毎年一定の時期に実施することで経年変化を把握し、生徒の指導に役立つ資料とする。
- ③ 「学校評価」について、教育委員会への提出書類の基礎資料とする。

### ＜ 実施時期 ＞

令和2年11月5日～11月30日

### ＜ 実施対象 ＞

生徒、保護者、教職員

### ＜ 情報開示 ＞

生徒、保護者、教職員、学校運営協議会、学校ウェブサイト 等を開示

### ＜ 回答数 ＞

	回答数	全体数	回答率（前年度比）
生徒	735名	782名	94.0% (+1.2)
保護者	305名	782名	39.0% (+0.6)
教職員	63名	63名	100% (+2.9)

### ＜ 評価結果と分析の見方 ＞

設問の大半は[A：あてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない]の四択式です。生徒への「信太高校体験入学、説明会への参加」「部活動への参加」「所属コース」に関する設問の回答は別紙資料をご覧ください。

報告書では各設問を、

1. 学校運営・環境
2. 教育相談・人権
3. 学校生活
4. 学習・体験
5. 進路指導・生活指導
6. 特別活動・その他

に分類し、その中で特に注目すべき点について、評価・分析・重点目標を記しています。また使用している数値は『肯定的評価＝A＋B の％』です。

資料では設問毎にA B C Dの割合（％）を示していますが、未回答、小数第2位以下の四捨五入等により、合計が100％にならない項目があります。

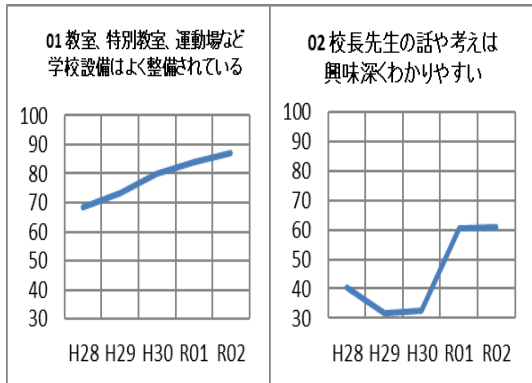
1. 学校運営・環境

<評価>

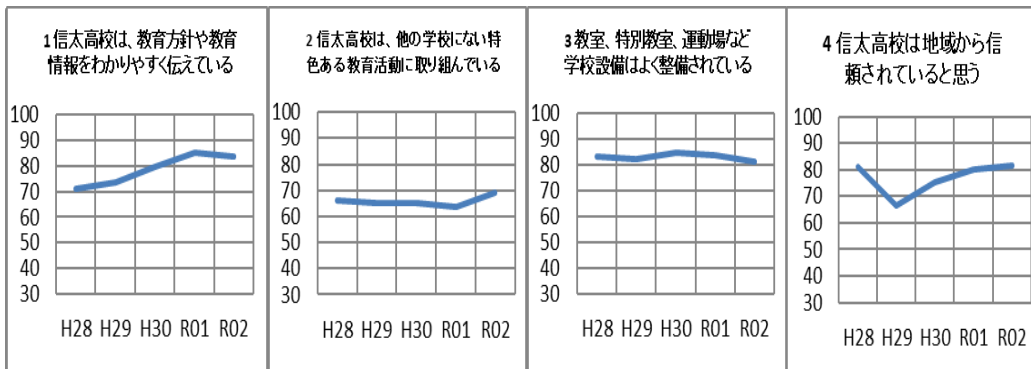
生徒・中学生のときに、信太高校の体験入学や学校説明会に何回参加しましたか

現1年生 (1回 29.0%・2回 10.0%・3回以上 2.7%) 計 41.7%

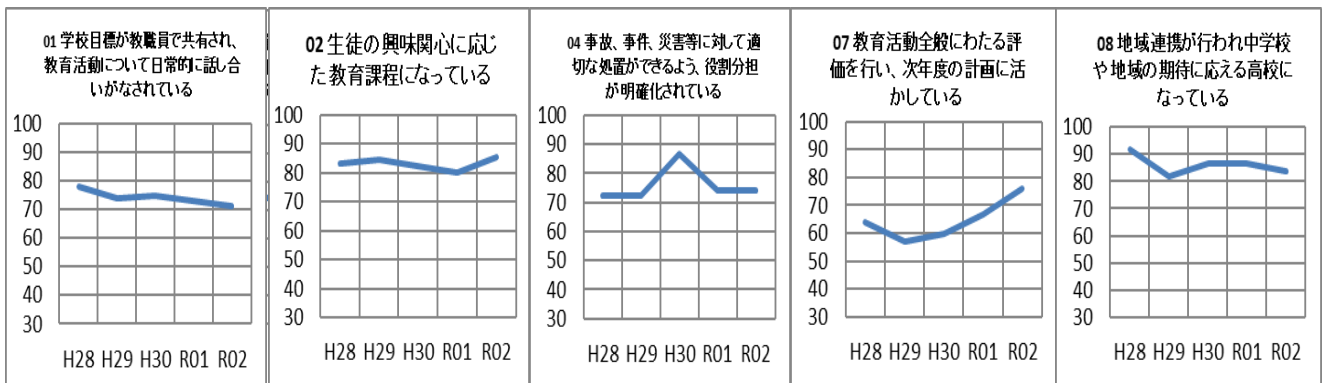
- ・教室、特別教室、運動場などの学校設備はよく整備されている 87.3%
- ・校長先生の話や考えは興味深くわかりやすい 60.7%



- 保護者・信太高校は、教育方針や教育情報をわかりやすく伝えている 83.4%
- ・信太高校は、他校にない特色ある教育活動に取り組んでいる 68.9%
  - ・教室、特別教室、運動場などの学校設備はよく整備されている 81.5%
  - ・信太高校は地域から信頼されていると思う 81.4%



- 教職員・学校目標が教職員で共有され、教育活動について日常的に話し合いがなされている 71.0%
- ・生徒の興味関心に応じた教育課程になっている 85.5%
  - ・事故、事件、災害等に対して適切な処置ができるよう、役割分担が明確化されている 74.2%
  - ・教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に活かしている 75.8%
  - ・地域連携が行われ中学校や地域の期待に応える高校になっている 83.9%



<分析>

◇生徒における学校設備の整備状態は 87.3%に達し、昨年度と比較すると 1.2 ポイント増加した。これは、教室にプロジェクターを設置したことと等、ここ数年 ICT 機器の充実に力を注いできたこと、教職員研修を重ね授業等でその活用を推進してきた結果であると言える。

◇地域からの信頼度については、PTA 活動など様々な取り組みの成果もあり、1.2 ポイント増加した。今後もこれを継続し、更なる信頼の獲得をめざしたい。

◇「他校にない特色ある教育活動」については、ここ数年横ばい状態であったが 5.0 ポイント増加した。今後も検討事項である。

◇地域連携が行われ中学校や地域の期待に応える高校については、2.5 ポイント減少となった。これについては、コロナウィルスの影響で交流機会の減少が原因であると考えられる。

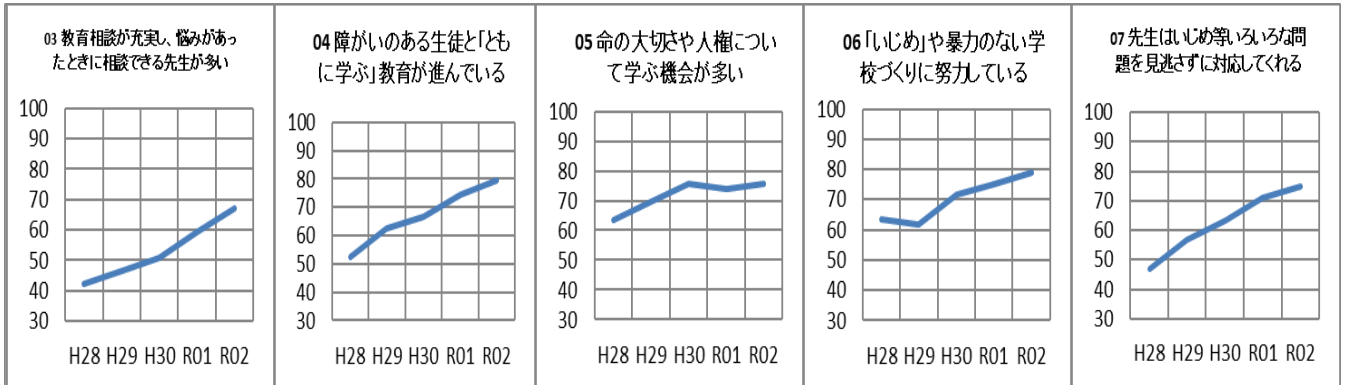
<重点目標>

入学者における体験入学や学校説明会への参加者数の減少は、今年度の志願者数減との結びつきが考えられる。したがって、今後体験入学や学校説明会の充実を図り、説明会への参加者数の増加をめざし、より多くの中学生に本校の魅力を伝えていきたい。またその際には、本校の特色について明確化することを重点においていくことが必要である。

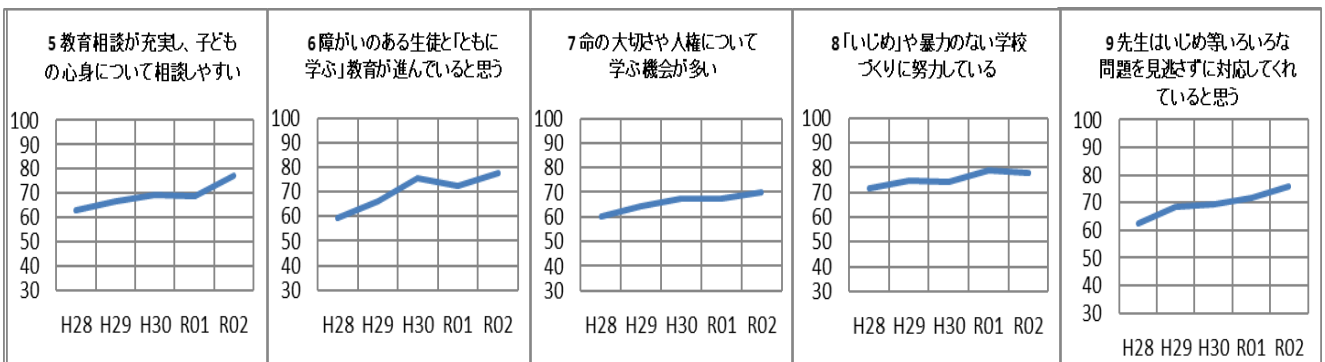
## 2. 教育相談・人権

<評価>

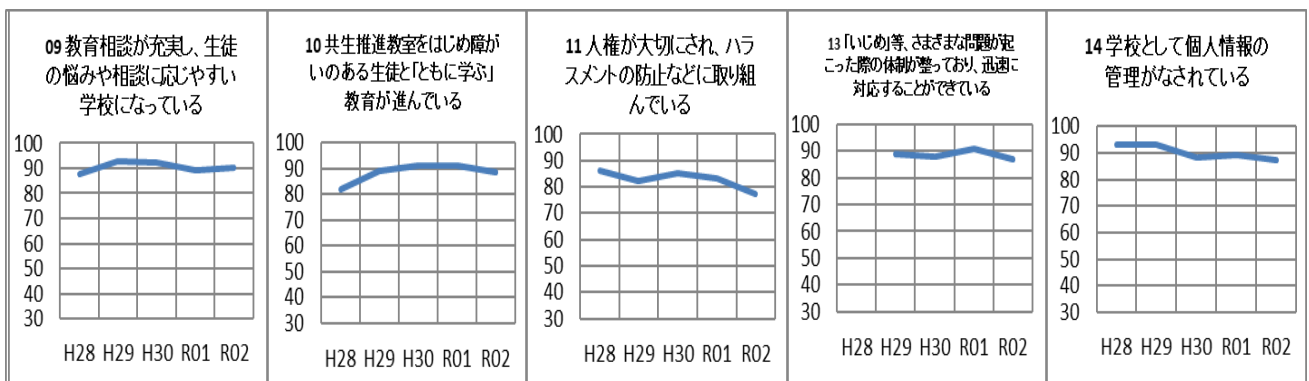
生徒・教育相談が充実し、悩みがあったときに相談できる先生が多い	67.2%
・障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいる	79.4%
・命の大切さや人権について学ぶ機会が多い	75.6%
・「いじめ」や暴力のない学校づくりに努力している	78.9%
・先生はいじめ等いろいろな問題を見逃さずに対応してくれる	74.7%



保護者・教育相談が充実し、子どもの心身について相談しやすい	77.1%
・障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいると思う	77.8%
・命の大切さや人権について学ぶ機会が多い	70.0%
・「いじめ」や暴力のない学校づくりに努力している	78.1%
・先生はいじめ等いろいろな問題を見逃さずに対応してくれていると思う	75.9%



教職員・教育相談が充実し、生徒の悩みや相談に応じやすい学校になっている	90.3%
・共生推進教室をはじめ障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいる	88.7%
・人権が大切にされ、ハラスメントの防止などに取り組んでいる	77.4%
・「いじめ」等、さまざまな問題が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる	87.1%
・学校として個人情報の管理がなされている	87.1%



#### <分析>

- ◇本校では、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを配置しており、助言をいただきながら教育支援委員会や教員で対応する体制をとっている。そのため「教育相談が充実し、悩みがあったときに相談できる先生が多い」の項目では生徒が 7.8 ポイント増加、「教育相談が充実し、子どもの心身について相談しやすい」の項目で保護者も 8.1 ポイント増加した。
  
- ◇「障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいると思う」の項目では、生徒が 4.8 ポイント増加、保護者も 5.4 ポイント増加した。本校は共生推進教室が設置され今年度で 7 年目を迎え、クラスでのかわりや学校行事等を通して生徒・保護者の方々の理解が深まってきた。
  
- ◇「命の大切さや人権について学ぶ機会が多い」の項目では生徒、保護者共に肯定的に感じており、年々増加傾向にある。人権学習では人権教育推進委員会が中心となって、生徒が命の大切さや人権について、主体的に問題を発見し解決ができる力が身につくような計画を立て、全体での講演会や各学年で年間 3 回の授業を行っている。
  
- ◇いじめ防止対策委員会を中心に、毎年いじめアンケートを実施し、教員で聞き取りを行い対応する体制ができている。そのため、生徒は「いじめや暴力のない学校づくりに努力している」の項目で 3.9 ポイントの増加、「先生はいじめ等いろいろな問題を見逃さずに対応してくれる」の項目で 3.7 ポイントの増加となった。また保護者も「先生はいじめ等いろいろな問題を見逃さずに対応してくれていると思う」の項目で、4.0 ポイント増加した。
  
- ◇「個人情報やプライバシーを守ることが大切にされている」の項目で、生徒は昨年よりも 6.4 ポイント増加している。

#### <重点目標>

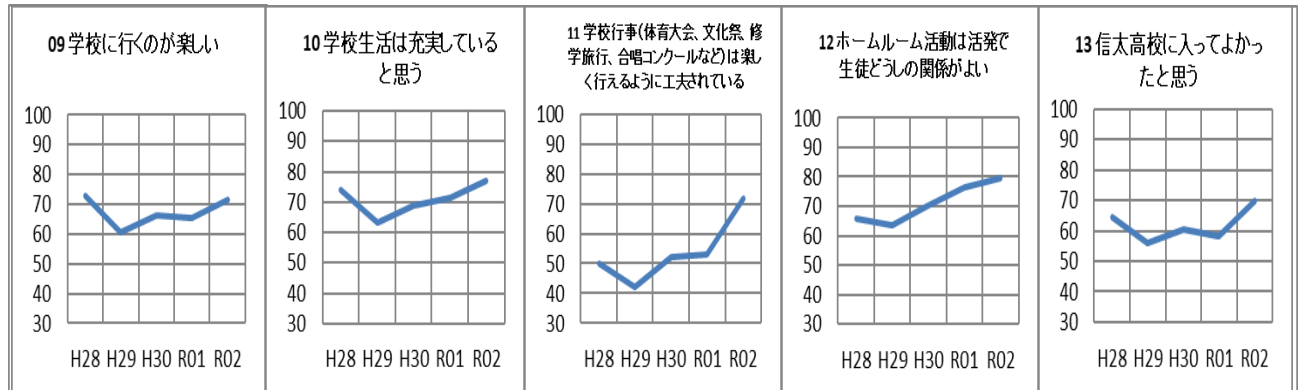
昨年同様、教育支援体制、相談体制については、肯定的回答が多くみられた。今年度も、生徒に寄り添った支援を心がけ、より一層安全・安心な学校作りに努める。

人権学習については、3 年間を見通した授業計画を実施し、「人権」に対する意識が着実に高まっている。今後も他者の存在を寛容に受容し、多様な価値観をお互いに認め合って生きていけるような取り組みを充実させていく。

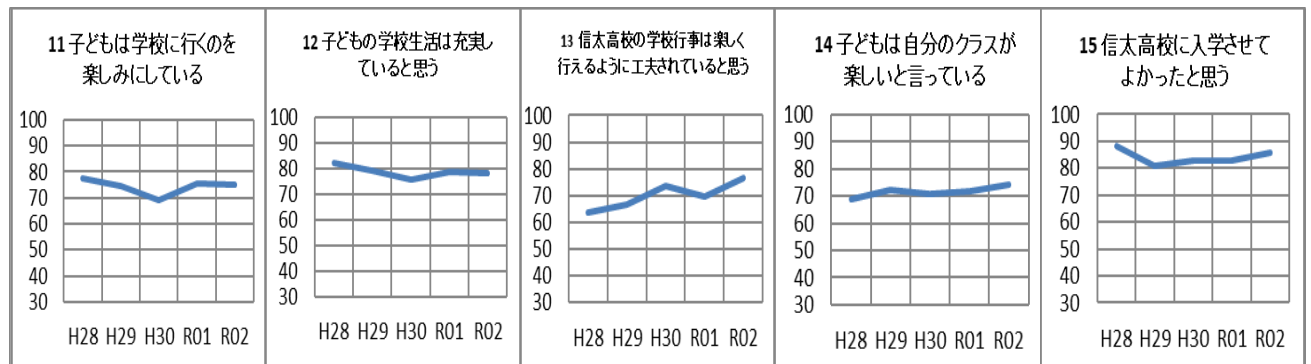
### 3. 学校生活

#### <評価>

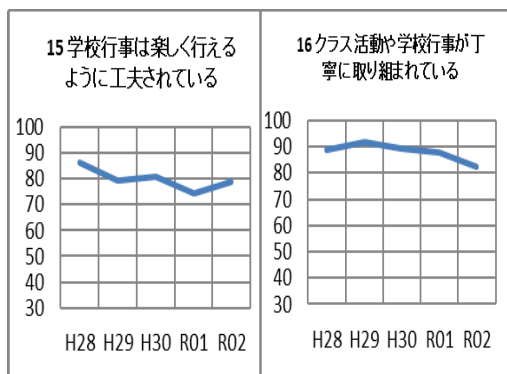
- 生徒・学校に行くのが楽しい 71.6%
- ・学校生活は充実していると思う 77.1%
- ・学校行事（体育大会、文化祭、修学旅行、合唱コンクールなど）は楽しく行えるように工夫されている 71.8%
- ・ホームルーム活動は活発で生徒どうしの関係がよい 79.4%
- ・信太高校に入ってよかったと思う 69.7%



- 保護者・子どもは学校に行くのを楽しみにしている 74.8%
- ・子どもの学校生活は充実していると思う 78.5%
- ・信太高校の学校行事は楽しく行えるように工夫されていると思う 76.4%
- ・子どもは自分のクラスが楽しいと言っている 74.0%
- ・信太高校に入学させてよかったと思う 85.7%



- 教職員・学校行事は楽しく行えるように工夫されている 79.0%
- ・クラス活動や学校行事が丁寧に取り組まれている 82.2%



### <分析>

◇生徒は昨年度より全体的に増加しており、「学校生活は充実していると思う」の項目で 5.6 ポイント、「学校行事は楽しく行えるように工夫されている」の項目で 18.8 ポイント、「ホームルーム活動は活発で生徒同士の関係が良い」の項目で 3.0 ポイントの増加となった。この 3 つの項目は過去五年間で最高となった。

◇保護者は「信太高校の学校行事は楽しく行えるように工夫されていると思う」の項目で 6.6 ポイントの増加、「子どもは自分のクラスが楽しいと言っている」の項目で 2.0 ポイントの増加となった。この 2 つの項目は過去五年間で最高となった。

◇教職員では「クラス活動や学校行事が丁寧に取り組まれている」の項目が過去五年間で最低となった。コロナ禍でも感染対策をしながら行事を行ったこともこの結果に大きくかかわっていると考える。生徒が安心して楽しめるように引き続き対策を検討していく必要がある。

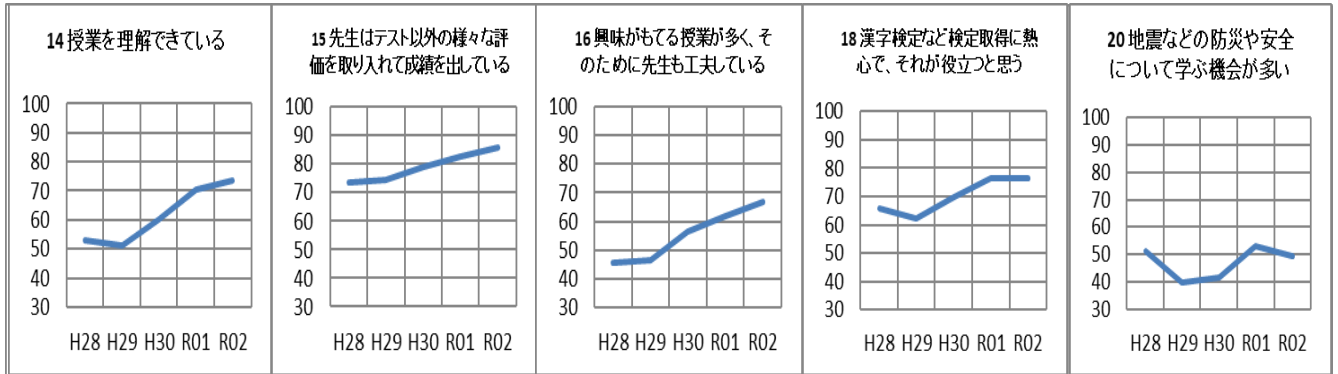
### <重点目標>

全ての生徒が、楽しく安心して学べる居場所をつくることと充実した学校生活を送ることができるようにすることは学校として重要であり、そのために保護者、教員等が普段から十分に連携を取りながら、今後ともより一層の工夫をしていくことが必要である。また、生徒主体の学校行事、生徒主体の学級運営等、生徒が中心となった学校運営を推進することで、より生徒が達成感や充実感を得ることができるようにする。

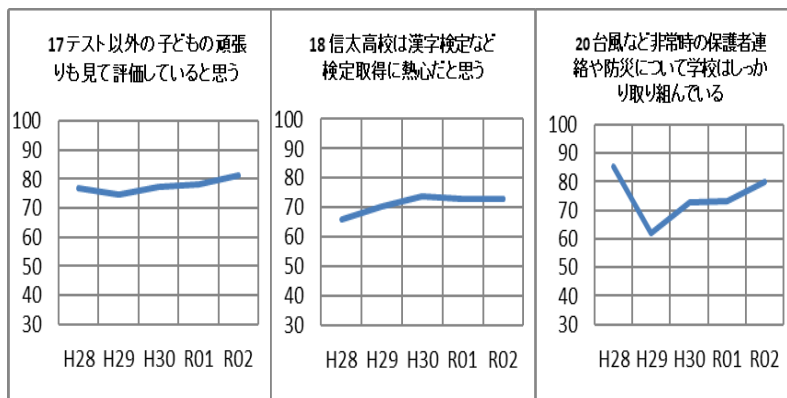
#### 4. 学習・体験

##### <評価>

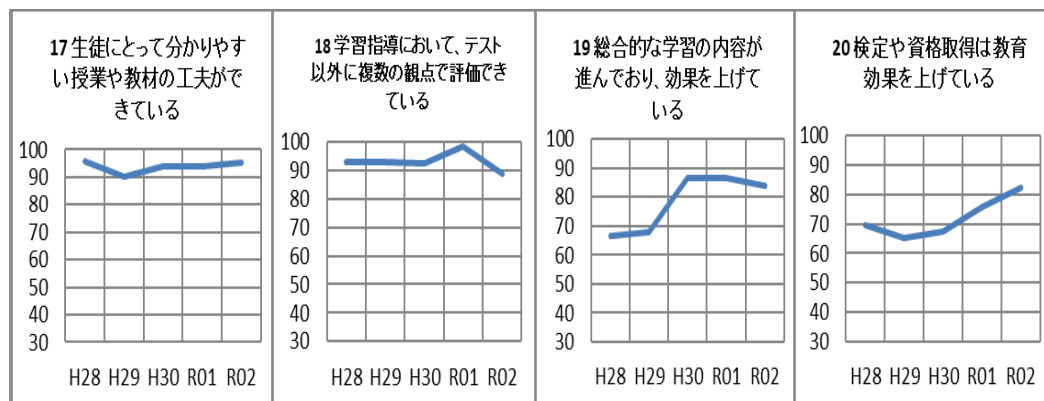
生徒・授業を理解できている	(3年 79.4% 2年 67.0% 1年 74.4%)	全学年	73.4%
・先生はテスト以外の様々な評価を取り入れて成績を出している			85.9%
・興味が持てる授業が多く、そのために先生も工夫している			66.6%
・漢字検定など検定取得に熱心で、それが役立つと思う			76.3%
・地震などの防災や安全について学ぶ機会が多い			49.5%



保護者・子どもは自分のクラスが楽しいと言っている	74.0%
・信太高校に入学させてよかったと思う	85.7%
・テスト以外の子供の頑張りも見て評価していると思う	81.5%
・信太高校は漢字検定など検定取得に熱心だと思う	72.8%
・台風など非常時の保護者連絡や防災について学校はしっかり取り組んでいる	79.8%



教職員・生徒にとってわかりやすい授業や教材の工夫ができている	95.2%
・学習指導において、テスト以外に複数の観点で評価できている	88.7%
・総合的な学習の内容が進んでおり、効果を上げている	83.9%
・検定や資格取得は教育効果を上げている	82.3%





#### <分析>

◇「授業を理解できている」の項目を学年毎にみると、1年生 74.4%、2年生 67.0%、3年生 79.4%となっており、全体では 3.4 ポイントの増加となった。過去 5 年間で最高となっており、年々増加傾向にある。

◇評価については、保護者の「テスト以外の子どもの頑張りも見て評価していると思う」の項目は 3.3 ポイントの増加、生徒の「先生はテスト以外の様々な評価を取り入れて成績を出している」の項目は 3.1 ポイントの増加となった。評価方法についての研究を進め、その成果を教職員全体で共有し、指導方法・評価方法の多様化を推進してきた成果が表れたものと思われる。

◇生徒の「地震などの防災や安全について学ぶ機会が多い」の項目は 3.6 ポイントの減少となった。コロナウィルスに関する注意喚起は徹底して実施できたが、避難訓練等の取組みが中止や縮小となったことが原因と考えられる。

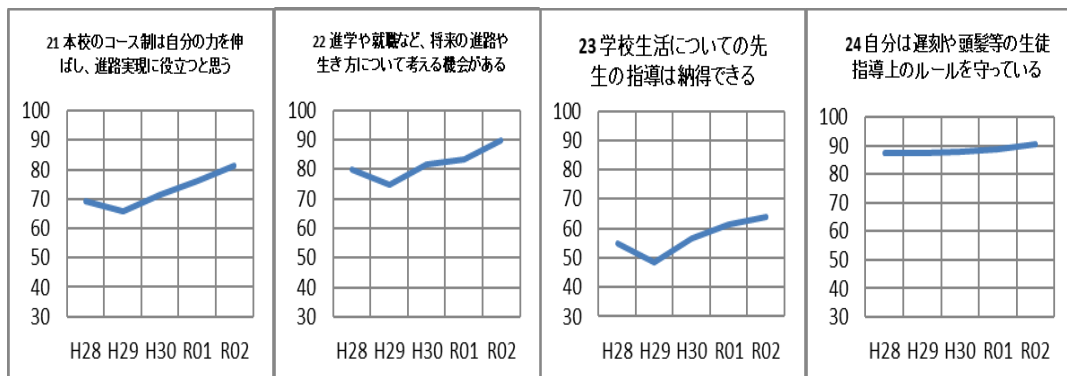
#### <重点目標>

上記の結果に加え、授業アンケートの結果が過去のデータと比較してみても上昇傾向にあることを鑑み、授業に関する取組みは年々良い成果が出ている。引き続き生徒が達成感を得ることができるような授業づくりを全教員で進めていき、さらに主体的な授業参加や授業理解度の向上を図る。オンライン授業に関しては、環境の整備と機器の操作や教材の作成等で求められる教職員のスキルアップが急務である。

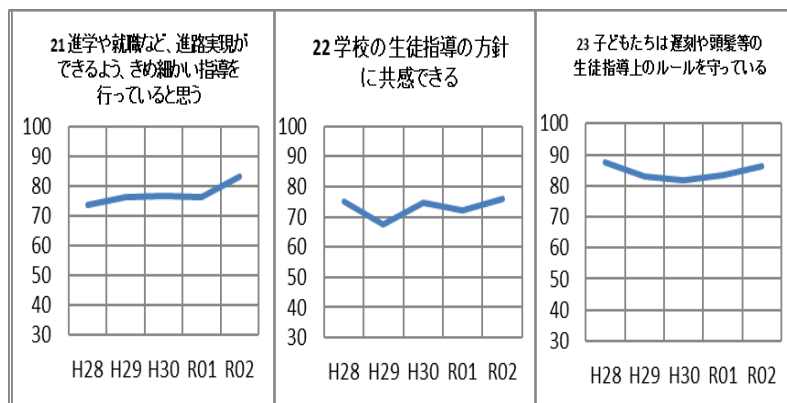
5. 進路指導・生活指導

<評価>

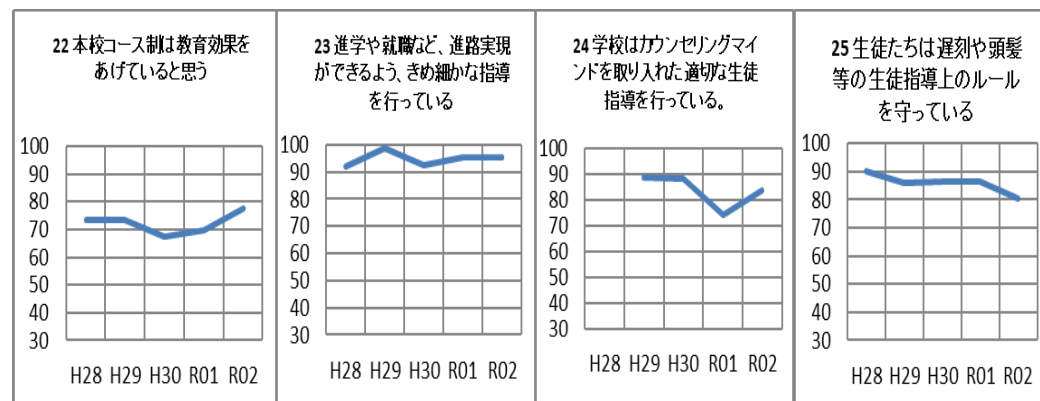
- 生徒・本校のコース制は自分の力を伸ばし、進路実現に役立つと思う 81.1%
- ・進学や就職など、将来の進路や生き方について考える機会がある 89.9%
- ・学校生活についての先生の指導は納得できる 64.0%
- ・自分は遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている 90.3%



- 保護者・進学や就職など、進路実現ができるよう、きめ細かい指導を行っていると思う 83.0%
- ・学校の生徒指導の方針に共感できる 75.8%
- ・子どもたちは、遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている 86.5%



- 教職員・本校コース制は教育効果をあげていると思う 77.5%
- ・進学や就職など、進路実現ができるよう、きめ細かな指導を行っている 95.1%
- ・学校はカウンセリングマインドを取り入れた適切な生徒指導を行っている 83.9%
- ・生徒たちは、遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている 80.6%



#### <分析>

◇進路指導については、本校のコース制に関して、生徒は81.1%で5.0ポイント増加、教職員は77.5%で8.0ポイント増加とともに上昇を続けている。推移をみると、平成30年度以降、教職員より生徒の方が高く平成27年度頃に比べると逆転している。

◇生徒指導に関する項目において、生徒と保護者はともに上昇している。指導に納得、共感できるかという点では、教職員 > 保護者 > 生徒 となっているのに対し、ルールを守っているかという点では、生徒 > 保護者 > 教職員 となっている。

#### <重点目標>

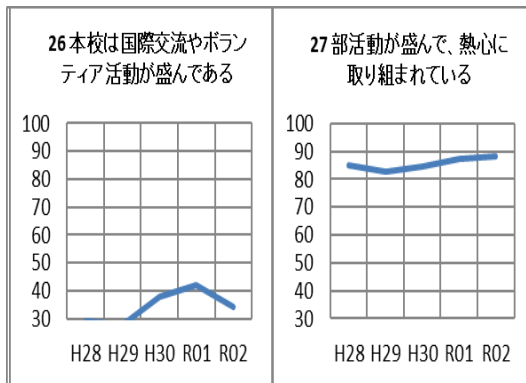
コース制に関しては、平成30年度を境に上昇しており、このままコース制度の教育効果を上げていくことが重要である。現在、新カリキュラム検討委員会を中心に令和4年度入学生より適用されるカリキュラムを作成中である。社会や生徒の現状を考慮しつつ、3年間を見通した系統的・継続的なキャリア教育を充実させ、進路実現につながるカリキュラムマネジメントを進めていく。また、体験に関しては、コロナ禍における実施の方法を模索していく必要がある。

生徒指導に関しては、上記のように教職員と生徒の間に意識の乖離が生じている。生徒の「学校生活についての先生の指導は納得できる(64%)」を、教員の数値(83.9%)に近づける取組みが必要である。これまで以上に粘り強く、生徒に寄り添った指導を行う。

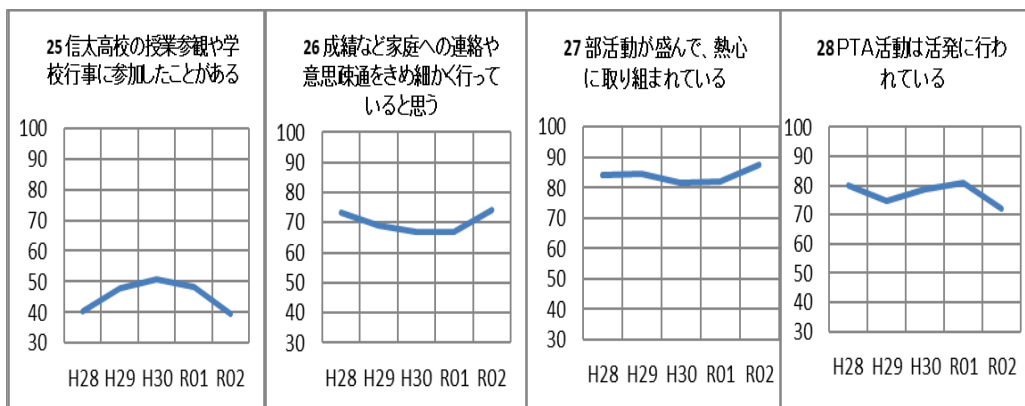
6. 特別活動・その他

<評価>

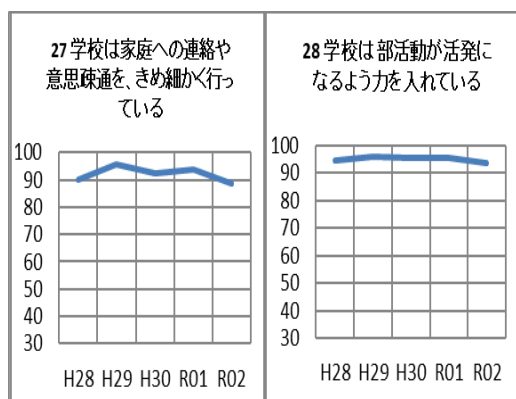
- 生徒・本校は国際交流やボランティア活動が盛んである 34.5%
- ・部活動が盛んで、熱心に取り組まれている 88.3%
- ・部活動に入っていますか (運動部 26.2% 文化部 11.7% 両方 0.3%) 全体 38.2%



- 保護者・信太高校の授業参観や学校行事に参加したことがある 39.4%
- ・成績など家庭へ連絡や意思疎通をきめ細かく行っていると思う 74.4%
- ・部活動が盛んで熱心に取り組まれている 87.7%
- ・PTA 活動は活発に行われている 71.9%



- 教職員・学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている 88.7%
- ・学校は部活動が活発になるよう力を入れている 93.6%



<分析>

◇部活動に関しては、生徒、保護者、教職員いずれも高い意識をもって取り組み、またその実感があることがわかる。加入率については、昨年同様、半数に満たなかった。

◇保護者との意思疎通に関しては、教員は88.7%に対し、保護者は7.7ポイント増加し74.4%となった。昨年度は27.2ポイントと大きく差が開いていたが、今年度は14.3ポイントまで小さくなった。まだ保護者と教職員の意識に差がある。また、「本校の授業参観や学校行事の参加したことがある」の項目では8.9ポイントの減少となった。コロナウィルスの影響が考えられる。PTA活動に関しても、PTA活動が縮小されたため、9.1ポイントの減少となった。

<重点目標>

部活動の加入率の増加をめざし、より一層部活動の活性化を図る。

国際交流やボランティア活動については、生徒会活動等、達成感や成長を実感できるような取組みを進める工夫が必要である。

保護者とは情報提供の内容や頻度について考えながら、メールマガジンやホームページを活用し、共通の認識が持てるようにする。また保護者が公開授業や学校行事に参加しやすい学校となるために、PTA活動や学校行事を充実させる。